

都倫研第4回読書会のご案内

平成25年11月22日

東京都立山崎高等学校

松島 美邦

都倫研平成25年度冬季研究協議会の第一部、読書会のご案内を、下記の通り申し上げます。

〔日時〕

平成25年12月27日 13時30分～17時00分（第一部は13：30～15：00の予定）

〔場所〕

首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス

東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル 12階1202号室

（JR「秋葉原」駅「電気街口」改札出て右 徒歩1分）

〔課題図書〕

J.デューイ『学校と社会』 ※今回レポーターは講談社学術文庫版を利用

（テキスト案内）

『学校と社会』 宮原誠一訳 岩波文庫

『学校と社会・子どもとカリキュラム』 市村尚久訳 講談社学術文庫

『学校と社会・経験と教育』（デューイ=ミード著作集7） 河村望訳 人間の科学新社

（参考図書）

『民主主義と教育』（上・下） 松野安男訳 岩波文庫

『経験と教育』 市村尚久訳 講談社学術文庫

その他、『哲学の改造』（清水幾太郎・清水礼子訳 岩波文庫）などがあります。

今回の課題図書に直接関連するものとして、上記を挙げるに留めておきます。

〔レポーターより〕

いくつかの倫理の教科書でも取り上げられている哲学者、デューイ。授業で扱った、習ったという方はどれくらいいらっしゃるでしょうか？ 彼の哲学に対する評価は賛否両論ありますが、彼の哲学について理解を深めるということは、単に哲学について学ぶということにとどまらず、私たちが関わる「学校」や「教育」について「哲学する」ことにもなると考えられます。それは同時に、自身の「哲学」がいかにか「実践」されているか、あるいはいないかを反省する機会ともなろうかと思われれます。その実践例としてデューイの思考と実践を学び、それについて議論することを通じて、「学校」や「教育」についても「哲学する」ことができるといいな…と空想しております。皆様、ぜひ（お手柔らかに）宜しく願いいたします。